

---

# 大学教育学会ニュースレター

No. 90 2012. 3. 30

---

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス内

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042) 704-7014

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: [ungakkai@gmail.com](mailto:ungakkai@gmail.com)

URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

---

## 大学教育学会第34回大会をお迎えするにあたって

大学教育学会第34回(2012年)大会  
大会実行委員長 山口 佳三 (北海道大学理事・副学長)

昨年3月に発生した東日本大震災と原発事故により被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興を願っております。

今日、世界的な社会・産業構造の変化、深刻な財政危機、日本においては急速な少子・高齢化、入学志願者の減少、厳しい就職状況などを背景として、大学教育の大きな転換が求められています。さらに、今回の未曾有の大災害は、大学における、また市民向けの科学教育の重要性をあらためて浮き彫りにしました。次の天災にそなえて、地震や津波、放射性物質に関する研究と教育を見直さなければなりません。

これらの課題を受けて、本大会では、統一テーマを「転換期の大学教育」とし、社会の求めに応える大学教育、科学教育のあり方に着目いたします。

1日目の基調講演には、2010年にノーベル化学賞を受賞された鈴木 章北大名誉教授に、化学を志すに至った経緯や日米の研究室における教育研究活動の相違などをお話しいたします。鈴木先生の研究活動は新制大学発足以来の60年をカバーしますので、過去をふり振り返りながら、次の時代を最先端で担う研究者を養成する教育環境について考える機会になればと考えております。

2日目のシンポジウム I 「学士課程教育の改善と教育情報」では、教育のアウトカムに力点を置き、教育情報の収集・公開と関連づけて、学士課程を横断する基礎的分野のプログラムの構築、直接評価(GPA)や間接評価(学生調査)を通してみた学生の学び、認証評価からみた学士力の実質化についてお話しいたします。

同時に開催しますシンポジウム II 「転換期における科学リテラシー教育の課題」では、獨協医科大学の木村 真三先生に被災地域住民の科学教育についてお話しいただくとともに、北海道大学 CoSTEP の石村 源生先生に、市民の科学教育を支援する科学技術コミュニケーターの養成について解説していただきます。

続く緊急シンポジウム「大学への秋期入学をめぐる」は、最近にわかに注目され、本学を含め多くの大学で真剣な議論が交わされております「大学への秋入学」導入について、東京大学副理事鈴木 敏之氏にお話しいただく特別企画です。諸外国に合わせた入学時期とギャップタームの導入は、日本の大学教育の大きな転換点になるかもしれません。この企画が各大学における議論の展開に役立つことを期待しております。

また、本大会では自由研究発表は93テーマ、ラウンドテーブルは16テーマが予定され、活発な議論が期待されます。

5月下旬の札幌はまことに過ごしやすい気候です。北海道の春の花はこの頃一度に開花し、ライラックまつりや北海道神宮祭などがこの時期に開催されます。学会開催日には、白や紫のライラックが咲きほこり、通りには甘い香りが漂います。

多数の皆さまが本大会に参加され、すがすがしい気分での日本の大学教育の将来像を議論し、この大会が日本の大学教育改革の節目となるように祈念いたします。

最後に、諸般の事情で企画開始が遅れたにもかかわらず、本大会の企画にご協力いただいた常任理事会ならびに企画委員会の皆さま、運営にあたる実行委員会の皆さまに厚く御礼申し上げます。

# 大学教育学会 第34回（2012年）大会

## 総合テーマ 転換期の大学教育

### 1. 開催日時および会場

期日 2012年5月26日（土）、27日（日）

会場 北海道大学高等教育推進機構

### 2. 大会日程

#### 第1日：5月26日（土）

8:30	9:00	9:20	9:30	12:10	13:10	14:00	14:10	14:20	15:20	15:30	18:00	20:00
受付	オリエンテーション		ラウンドテーブル	昼食	総会		開催校挨拶	基調講演		自由研究発表 I	懇親会	

#### 第2日：5月27日（日）

8:30	9:00	12:10	13:10	15:10	15:20	15:30	16:50	17:00
受付	自由研究発表 II	昼食	シンポジウム I・II	次期催校挨拶		緊急シンポジウム	閉会	

### 進行時間の概略

#### 第1日目 5月26日（土）

- 8:30～ 受付
- 9:00～ 9:20 初めて参加する人のためのオリエンテーション（20分）
- 9:20～ 9:30 休憩（10分）
- 9:30～12:10 ラウンドテーブル（160分）
- 12:10～13:10 昼食（60分）
- 13:10～14:00 総会（50分）
- 14:00～14:10 休憩（10分）
- 14:10～14:20 開催校挨拶 北海道大学総長 佐伯 浩（10分）
- 14:20～15:20 基調講演 北海道大学名誉教授・ノーベル賞受賞者 鈴木 章（60分）
- 15:20～15:30 休憩（10分）
- 15:30～18:00 自由研究発表（150分）
- 18:00～20:00 懇親会（生協北部食堂）開会の挨拶 北海道大学副学長 山口 佳三

#### 第2日 5月27日（日）

- 8:30～ 受付
- 9:00～12:10 自由研究発表（180分）
- 12:10～13:10 昼食（60分）
- 13:10～15:10（120分：シンポジウム I・II 並行開催）
  - ・シンポジウム I：学士課程教育の質の改善と教育情報

・シンポジウムⅡ：転換期における科学リテラシー教育の課題

15:10~15:20 次期開催校挨拶（10分）  
15:30~16:50 緊急シンポジウム：大学の秋期入学をめぐって（80分）  
16:50~17:00 閉会（10分）

## 関連行事

5月25日（金）

理事会 16:00~18:30 （北海道大学情報教育館3階スタジオ型多目的型中講義室）  
理事会懇親会 18:30~ （同上）

5月27日（日）

常任理事選出のための特別理事会 12:00~13:00 （北海道大学高等教育推進機構大会議室）

## 進行の詳細

5月26日（土）

8:30~ 受付

9:00~9:20 初めて参加する人のためのオリエンテーション

会場：N1（階段大教室） 担当：石渡 尊子（大学教育学会事務局長・桜美林大学）

本学会は「大学教育」を共通の切り口として、様々な分野の方々が集まっています。このセッションでは、主に初めて学会大会に参加される方や最近会員になられた方々を対象に、本学会の簡単な歴史、学会として取り組んでいる課題、学会誌に投稿する際の注意事項などを紹介いたします。

9:30~12:10 ラウンドテーブル

テーブル1 学生と楽しむ大学教育 — 橋本メソッド疑似体験

会場：E202

企画者：清水 亮（三重中京大学）、橋本 勝（富山大学）、山地 弘起（長崎大学）、金西 計英（徳島大学）

趣旨：中教審答申が求める大学教育のパラダイムシフトに対応し、学生のラーニングアウトカムズを向上させるにはどうすればよいのか。「学びの主権者」ともいうべき学生が主体的に学ぶためには、「学生と楽しむ教育」が不可欠であると考えます。そのヒントとしての橋本メソッドを疑似体験しながら、学生を伸ばす教育のエッセンスを探りたい。話題提供者として、徳島大学で2010年後期に橋本メソッドを軸にした実践で「共通教育賞」を受賞された金西計英先生などをお願いする他、橋本が富山大学で展開し始めた新・橋本メソッドも紹介するが、むしろフロアと一体化し橋本メソッド以外の方法も含めて次代の大学教育の在り方について議論を楽しみたい。

テーブル2 学生の理解を深める教授学習（deep approach）その2

会場：E203

企画者：加藤 かおり（新潟大学）、杉原 真晃（山形大学）、ホートン広瀬 恵美子（芝浦工業大学）

趣旨：本ラウンドテーブルは、昨年の「学生の理解を深める教授学習」の続編として行う。前回は、その基本概念の確認、試行的な実践事例に関する話題提供をし、主にこのコンセプトの意義や方法等の開発について議論を行った。今回は、前回の議論を振り返りながら、まず、そこでの論点の1つとなった学問領域、もしくは学習の局面ごとの深い学習のあり方やその教授学習の方法の違いに焦点をあて、関連する話題を提供しつつ、議論を進めていく。そして、それらの教授学習の方法を導入する際の、具体的、現実的な留意点などの身近な問題点についても、参加者とともに考えていきたい。

テーブル3 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅳ — 「大学学生教員職員三輪車論」の可能性の検証

**会場**：E204

**企画者**：高橋 真義(桜美林大学)、塩崎 俊彦(高知大学)、中村 拓昭(九州産業大学)、十河 功一(九州女子大学)、米田 敬子(文教大学)

**趣旨**：学生と教員と職員の関係を三輪車に例え、学生は前輪でペダルをこぎ、教員と職員は後輪で、教員の「教育力」と大学職員の「教育支援力」を発揮し、パートナーシップを保ち、学生の持てる能力を引き出すことができるとした「大学学生教員職員三輪車論」の可能性を探る。

桜美林大学の共通科目特別講座「大学と現代社会」では職員が「職員先生」として授業を担当し、2011年度は「学園歌」を歌い「母校」をより意識する授業をおこなった。

学生へのアンケート調査分析より、三者の大学の意識の変化を探る。洞察を深めるために、「自己表現・評価トレーニング」簡略版を用い、グループディスカッションをおこない、多面的に検証する。

#### テーブル4 キャリア教育の質保証に向けたライティングスキルズ育成を考える(1) — 学士課程教育における問題点

**会場**：E205

**企画者**：井下 千以子(桜美林大学)、井下 理(慶應義塾大学)、住吉 広行(松本大学)、松本 美奈(読売新聞社)、田部井 潤(東京国際大学)

**趣旨**：本ラウンドテーブルの目的は、グローバル化の進展や産業構造の変化など、大学教育が社会の要請に対応できていない問題を背景とし、学士課程教育再編の一方策として、キャリア教育の質保証に、ライティング教育がいかに関与するかを明らかにすることにある。これまでのキャリア教育では、エントリーシートなど定型的スキル訓練が中心であり、学士課程教育での成果が反映されているとは言い難い。そこで、本ラウンドテーブルでは、ライティング教育の研究と実践を基軸とし、就活力や職業適性に特化したキャリア教育の問題点を析出するため、多様な事例をもとに議論を深めていきたい。

#### テーブル5 大学教育におけるピア・サポートの位置づけ — 正課と正課外の狭間で

**会場**：E208

**企画者**：川島 啓二(国立教育政策研究所)、小貫 有紀子(九州大学)、泉谷 道子(愛媛大学)、森 朋子(島根大学)

**趣旨**：ピア・サポートは学生のモチベーションやスキルを高める取り組みとして注目を集めているが、特に、学習支援の中で正課の授業との関わりを持つものについては、ただ単に「わからないところを教えてくれる上級生」といったレベルを越えて、授業展開の中での役割、メンター学生への研修、謝金など、綿密な制度設計が必要な状況も見え出している。一方、正課外の範疇に入る取り組みについても、プログラムとしての完成度やそれによって得られる学生の成長といった観点からは、何らかの制度的位置づけが求められている取り組みもある。本ラウンドではこれらの論点について議論を展開したい。

#### テーブル6 学生アスリートのライフスキルと学業・学習支援

**会場**：E206

**企画者**：木内 敦詞(大阪工業大学)、奈良 雅之(目白大学)、島本 好平(兵庫教育大学大学院)、山口 幸生(福岡大学)、長倉 富貴(山梨学院大学)

**趣旨**：今日、大手企業が競技スポーツから撤退する中、大学における主要な課外活動である運動部活動(大学スポーツ)は多くの五輪選手を輩出するとともに、広報的な役割を果たしている人材的資源といっても過言ではない。一方、運動部員の学業不振、不祥事や修学態度の不良が問題になることもあり、彼らへの支援は、多様な入学者の受け入れという観点から重要と考える。ここでは、大学において競技スポーツに専念する学生を「学生アスリート」と呼び、彼らの大学生としての適応と成長、キャリア形成を支援する方策について、ライフスキル教育、学業・学習支援という視点から討議してみたい。

## テーブル7 体系的なカリキュラム構築と学習成果の可視化のためのルーブリックの構築・活用

会場：E207

企画者：濱名 篤(関西国際大学)、土持 法一(帝京大学)、山本 秀樹(関西国際大学)、松田 岳士(島根大学)、森 朋子(島根大学)

趣旨：ルーブリック評価は「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と、学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す定性的な評価指標である。被評価者と評価者の双方に評価基準と評価基準をあらかじめ提示し、評価の観点を可視化することから、従来の学習到達度評価(テスト等)より教員と学生間において価値観の共有が図られることが大きなメリットである。

本ラウンドテーブルでは、中教審の議論でも注目されており、学士課程教育における実質的な質保証・向上を図る新たなツールであるルーブリックの構築・活用について、日本とアメリカでの事例報告も含め議論したい。

## テーブル8 学習成果の直接評価に向けて — パフォーマンス評価の可能性

会場：E311

企画者：松下 佳代(京都大学)、小野 和宏(新潟大学)、高橋 雄介(京都大学)、平山 朋子(藍野大学)、坂本 尚志(京都大学)、関田 一彦(創価大学)

趣旨：近年、高等教育の質保証や IR への着目に伴い、学習成果の「間接評価」が、学生調査などを通じて組織的に実施され始めている。だが、学習成果の「直接評価」については、GPA のような評価結果の標準化が先行して、評価方法の理論的・実践的検討は不十分なままにとどまっている。本ラウンドテーブルでは、多様な分野(哲学、歯学、理学療法学)・階梯(入学資格試験、初年次教育、専門教育)での事例をもとに、直接評価の方法としてのパフォーマンス評価のあり方について多角的な検討を行う。パフォーマンス評価導入の背景、具体的な方法、理論的・実践的課題などを、各報告とディスカッションを通じて明らかにしていきたい。

## テーブル9 共通教育全国調査をめぐって

会場：E218

企画者：吉永 契一郎(東京農工大学)、中村 博幸(京都文教大学)、木本 尚美(県立広島大学)、古畑 徹(金沢大学)、佐々木 一也(立教大学)、山内 正平(千葉大学)、小山 悦司(倉敷芸術科学大学)、杉谷 祐美子(青山学院大学)、小林 勝法(文教大学)、吉田 香奈(広島大学)

趣旨：本課題研究は、学部長・実施組織代表者に対して行った共通教育に関する全国調査の結果について、昨年度の研究集会において報告を行った。そこでは、実施体制に課題を抱えながら、共通教育の中身が、ディシプリン概論から学生支援型へ大きく変化しつつある現状が明らかになっている。このラウンドテーブルでは、その調査結果を受けて、結果の解釈・各大学の実情・共通教育の今後について自由な意見交換を行いたい。今回は、以下の資料に事前に目を通した上での参加をお願いする。

- ・木本報告・吉田報告『大学教育学会誌』第34巻・第1号
- ・共通教育全国調査単純集計表(学会HP)
- ・共通教育全国調査エクセル・ファイル(学会HP)

## テーブル10 一般教育の知的遺産を活かす(その4)

会場：E219

企画者：志津木 敬(広島大学文書館調査員)、竹下 賢(関西大学法科大学院)、山本 伸也(関西学院大学)、丹生 久吉(三重大学)、坂入 明(東京家政大学)、山下 耕(東京工業大学)、目 修三(八戸工業大学)、廣内 大輔(宇都宮大学)

趣旨：一般教育の知的遺産のなかには、一般教育研究諸団体における知的遺産も含まれる。「大学教員にとってのもうひとつの専攻領域」は、本学会が生み出した一般教育の知的遺産といえる。

「大学教員にとってのもうひとつの専攻領域」は、新たな学問観、大学観に迫る規模をもっているが、日常的な「私にとっての一般教育」にも根差している。本ラウンドテーブルでは、「私にとっての一般教育」という視点から「大学教員にとってのもうひとつの専攻領域」を取り上げ

る。

#### テーブル 1 1 保健医療福祉系大学における教養教育の問題 (3) — コア・カリキュラムにおける人文社会系教養の意義を考える

会場：E307

企画者：小野 滋男(北海道医療大学)、志水 幸(北海道医療大学)、堀井 泰明(天使大学)、町田 修三(高崎健康福祉大学)、遠藤 良仁(岩手県立大学)

趣旨：これまで、われわれは保健医療福祉系大学における教養教育の問題について、「専門教育と教養教育とのつながり(2010年大会)」、「人文社会系教養を考える(2011年大会)」の視点から検討してきた。その結果、教養教育と専門教育とを総合した教育体制の整備や、当該専門教育の成果に対する人文社会系教養の知見からの再審問の必要性について議論を深めてきた。そこで、今回は当該専門教育の到達基準を示したコア・カリキュラム等をもとに、教育内容や連携のあり方について具体的な議論を展開する中で、人文社会系教養の意義について考える。

#### テーブル 1 2 大学 IR コンソーシアムの可能性 — 取組の事例報告と今後への期待

会場：E214

企画者：江原 昭博(同志社大学)、伊庭 緑(甲南大学)、山田 邦雅(北海道大学)、大坪 伸行(大阪府立大学)

趣旨：平成 21 年度戦略的大学連携支援事業「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出-国公立 4 大学 IR ネットワーク」を通じて、同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学の連携 4 大学は、教学 IR に焦点化し、「相互評価」を活かした教育の質保証の枠組み整備に取り組んできた。補助期間の終了した現在では、新たに「大学 IR コンソーシアム」の設立を目指し、自立した事業としての展開を模索しているところである。

今回のラウンドテーブルでは、今後の高等教育の質保証の発展を目指し、戦略連携事業を通じて得られた知見の共有および、大学 IR コンソーシアムの今後の展開に向けて会員各位との意見交換を目指すものである。

#### テーブル 1 3 ポスト GP 時代の大学間連携事業のマネジメント

会場：E308

企画者：佐藤 浩章(愛媛大学)、大竹 奈津子(愛媛大学)、川面 きよ(大学コンソーシアム京都)、難波 美都里(南大阪地域大学コンソーシアム)

趣旨：大学コンソーシアムにとって、文部科学省の戦略的大学連携支援事業(通称、戦略 GP)が終了した現在、大学間連携事業をどのようにマネジメントしていくかが、課題となっている。どのような事業を展開するかに加えて、スタッフの雇用、財源の確保、協力体制を維持する組織デザインといった点で、どのように持続的に発展が可能な体制を構築するかが問われている。本ラウンドテーブルでは、3つの大学コンソーシアム(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク、大学コンソーシアム京都、南大阪地域大学コンソーシアム)の事例から、この課題を探究する。

#### テーブル 1 4 学生とともに進める FD

会場：E312

企画者：木野 茂(立命館大学)、梅村 修(追手門学院大学)、服部 憲児(大阪大学)、村山 孝道(京都文教大学)、大澤 秀介(愛知教育大学)、天野 憲樹(岡山大学)、梶浦 桂司(札幌大学)、穴田 有一(北海道情報大学)、山本 堅一(小樽商科大学)、松澤 衛(北翔大学)

趣旨：FD 活動に学生の視点を活かすことを目的に、2009 年 8 月に第 1 回「学生 FD サミット～大学を変える、学生が変わる～」が開催された。このサミットを契機に、学生が主体となり、教職員も一緒に取り組む「学生 FD 活動」が全国に広がっている。

これを受けて、学生 FD に関心を持つ学会員のために各大学における学生 FD 活動の取り組みを紹介するとともに、学生 FD 活動の意義と現状および今後の課題について意見交換することを目的に、2010 年度から本テーマでラウンドテーブルを企画している。

今回は開催地が北海道なので、北海道の4大学から取り組みを紹介してもらい、今後の学生FD活動について参加者と意見交換したい。

#### テーブル15 教育改善における大学執行部の役割とリーダーシップ

会場：E313

企画者：夏目 達也(名古屋大学)、橋本 健夫(長崎大学)、大森 不二雄(首都大学東京)、吉永 契一郎(東京農工大学)

趣旨：現在、多くの大学で教育の質向上に向けて、教育改革が進められている。そこでは、大学執行部、とりわけ教育担当副学長の役割が大きい。全学レベルでの改革であればもちろん、各学部の改革においても教育担当副学長はさまざまな形で関与している。副学長は自身が改革の主体になるのではなく、むしろ実際の教育担当者による改革を直接・間接に支援する役割を担うことが多いようである。そこに副学長のリーダーシップ発揮の難しさの一端がある。教育担当者との間でのどのような役割分担をしているのか、リーダーシップ発揮のために副学長はどのような工夫をしているのか等について、具体的な事例を通して考える。

#### テーブル16 カリキュラム・マネジメントにおける教職協働

会場：E314

企画者：佐々木 一也(立教大学)、今田 晶子(立教大学)、清水 栄子(阿南高等工業専門学校)、寺崎 昌男(立教学院)、秦 敬治(愛媛大学)、本郷 優紀子(桜美林大学)

趣旨：課題研究「大学人の構成と機能 ― カリキュラム・マネジメントに即して」研究委員会はカリキュラムマネジメントに関する教職協働の実態調査を行っている。今年度は山形大学、愛媛大学、大阪府立大学において調査を行った。教職協働の実態をそれぞれの大学の個性に即して理解する作業をもとに、それらに共通する問題を浮き彫りにしたい。これまでの調査・研究に基づき、企画者がカリキュラム・マネジメントに即した教職協働に共通に見られる特徴を整理する。その上で、調査対象になった3大学の関係者それぞれに、自らの大学事情に即した教職協働の実態と、その円滑な遂行に必要な条件などを提示していただく。

12:10～13:10 **昼食** 北海道大学生協北部食堂をご利用いただけます。

13:10～14:00 **総会**

会場：大講堂

14:00～14:10 休憩(10分)

14:10～14:20 開催校挨拶

会場：大講堂 北海道大学総長 佐伯 浩

14:20～15:20 **基調講演**

会場：大講堂

演題：ノーベル化学賞への道

講師：鈴木 章(北海道大学名誉教授・ノーベル賞受賞者)

司会：細川 敏幸(北海道大学)

15:20～15:30 休憩

15:30～18:00 **自由研究発表 I**

部会につきましては、申込み時に選択された演題種別をもとに実行委員会・企画委員会で調整させていただきます。ご希望通りの種別に振り分けられていない場合もございますが、ご了承くださいませようようお願い申し上げます。

### 部会1 教育方法・教育改善（1）

会場：N1（階段大教室）

司会：大和田 秀一（酪農学園大学）、奈良 雅之（目白大学）

- 15:30～15:50 大学体育・健康教育における教育方法に関する研究：運動・食事・休養からの検討  
嘉数 健悟（沖縄大学）、大場 渉（沖縄大学）
- 15:50～16:10 大学体育・健康教育における教育方法に関する研究：健康度・生活習慣からの検討  
大場 渉（沖縄大学）、嘉数 健悟（沖縄大学）
- 16:10～16:30 初年次科目と教職科目における大学体育の標準化への取り組み  
庭崎 隆（愛媛大学）、日野 克博（愛媛大学）
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 理工系分野における大学生の職業能力育成の分析  
吉永 契一郎（東京農工大学）、辻村 秀信（東京農工大学）、  
山形 洋平（東京農工大学）、三沢 和彦（東京農工大学）
- 17:00～17:20 物理学講義における系統的演示実験-提示順序の理論的考察-  
安田 淳一郎（岐阜大学）、齋藤 芳子（名古屋大学）、小西哲郎（名古屋大学）、  
中村 泰之（名古屋大学）、千代 勝実（山形大学）、  
古澤 彰浩（名古屋大学）、三浦 裕一（名古屋大学）
- 17:20～17:40 文科系学生を対象とした座学中心の情報教育科目に対する興味・関心と入学前の知識習得状況  
廣渡 栄寿（北九州市立大学）、浅羽 修丈（北九州市立大学）、中尾 泰士（北九州市立大学）
- 17:40～18:00 総合討論

### 部会2 教育方法・教育改善（2）

会場：N2（階段大教室）

司会：森 朋子（島根大学）、山内 正平（千葉大学）

- 15:30～15:50 大学生の学習へのアプローチと授業・学習経験の認識との関係  
齋藤 有吾（京都大学大学院）、大塚 雄作（京都大学）
- 15:50～16:10 グループ内個人学習を軸としたアクティブラーニング事例 — 学生からのフィードバックを中心に  
山地 弘起（長崎大学）、丹羽 量久（長崎大学）、藤井 美知子（長崎大学）
- 16:10～16:30 サービス・ラーニングにおける経験や内省が学生の学習成果に及ぼす効果に関する実証的研究 — 広島経済大学・興動館プロジェクトを事例として  
木村 充（東京大学）
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 カリキュラム横断的にクリティカルシンキングを育む概念枠組みの検討  
久保田 祐歌（愛知教育大学）
- 17:00～17:20 大震災・福島原発問題にとりくむ学生主体のグループ学習 — 「防災教育」「脱原発教育」  
小島 勇（東京電機大学）
- 17:20～17:40 学生の主体的な授業外学習を増加させる授業設計  
吉田 博（徳島大学）、金西 計英（徳島大学）
- 17:40～18:00 総合討論

### 部会3 教育方法・授業改善（3）

会場：E208（大教室）

司会：小野 滋男（北海道医療大学）、齋藤 くるみ（日本社会事業大学）



- 15:30～15:50 海外研修の異文化理解と言語教育 — 「聞く」ことから「書く」ことへ  
 穂本 せつ子(東洋大学)
- 15:50～16:10 「きく(聞く、聴く、訊く)力」を養成するための大学実践教育プログラム:そのカリキュラムと効果  
 穂田 照子(桜美林大学)
- 16:10～16:30 留学のための英語集中コースにおける学習・留学支援制度の評価・改善への取り組み  
 津田 信男(甲南大学)
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 英語教育プログラム改革事例の検証と改善への考察  
 飯吉 弘子(大阪市立大学)、平 知宏(大阪市立大学)
- 17:00～17:20 コミュニケーション・カードを用いた授業改善  
 劉 卿美(長崎大学)、橋本 健夫(長崎大学)、川越 明日香(広島大学大学院)
- 17:20～17:40 札幌農学校における Immersion Program(英語教育)の今日的な意義:統計手法による解析結果  
 浅野 幸子(大阪体育大学)
- 17:40～18:00 総合討論

#### 部会4 IRの活用

会場: E214 (大教室)

司会: 安藤 厚(北海道大学)、鳥居 朋子(立命館大学)

- 15:30～15:50 島根大学における教学 IR の展開と可能性 — 入学時調査・パネル調査・教務データを用いて  
 雨森 聡(島根大学)、松田 岳士(島根大学)、森 朋子(島根大学)
- 15:50～16:10 日本における IR (Institutional Research) の現状 — 国立大学法人の取り組みを中心にして  
 岩崎 保道(琉球大学)
- 16:10～16:30 IRに関する意識及び実態 — 国立大学法人に対するアンケート調査  
 高田 英一(九州大学)、森 雅生(九州大学)、  
 高森 智嗣(九州大学)、桑野 典子(九州大学)
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 佐賀大学版 IR とその機能  
 皆本 晃弥(佐賀大学)、西郡 大(佐賀大学)、谷口 圭介(佐賀大学)、木塚 徳男(佐賀大学)
- 17:00～17:20 教学 IR における量的データと質的データの活用 — 学業成績の変化過程への二側面からのアプローチ  
 川那部 隆司(立命館大学)、鳥居 朋子(立命館大学)
- 17:20～17:40 大学教育情報システムによる教育改善の検証  
 瀬川 良明(北海道教育大学)
- 17:40～18:00 総合討論

#### 部会5 多様な試み

会場: E205

司会: 宇田川 拓雄(北海道教育大学)、近田 政博(名古屋大学)

- 15:30～15:50 雑誌記事にみるユニバーサル化時代の大学・大学生のイメージ (1)  
 杉谷 祐美子(青山学院大学)、白川 優治(千葉大学)、小島 佐恵子(北里大学)
- 15:50～16:10 雑誌記事にみるユニバーサル化時代の大学・大学生のイメージ (2)  
 小島 佐恵子(北里大学)、杉谷 祐美子(青山学院大学)、白川 優治(千葉大学)

- 16:10～16:30 文部省管轄外の「大学」教育に関する研究  
戸田 千速(東京大学大学院)
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 学生のラーニング・ブリッジングと授業・授業外での学習行動との関連  
河井 亨(京都大学大学院)
- 17:00～17:20 大学を社会にひらくカフェイベント「UTalk」の企画と運営  
森 玲奈(東京大学大学院)、池尻 良平(東京大学大学院学際情報学府)、佐藤 優香(東京大学大学院情報学環)、南崎 梓(東京大学本部広報室)、吉川 久美子(東京大学大学院学際情報学府)、猫田 耳子(無所属)、山内 祐平(東京大学大学院情報学環)
- 17:20～17:40 調査フィールドを用いた実践的環境教育  
塩寺 さとみ(北海道大学)、山本 浩一(山口大学)、高橋 英紀(北海道大学)、大崎 満(北海道大学)
- 17:40～18:00 総合討論

#### 部会6 教職協働・教職員能力開発(1)

会場：E206

司会：今田 晶子(立教大学)、志水 幸(北海道医療大学)

- 15:30～15:50 大学職員の「コミュニケーション力」についての考察  
高橋 真義(桜美林大学)、米田 敬子(文教大学)
- 15:50～16:10 企画立案型SDにおける職員の学び  
村上 正行(京都外国語大学)、山崎 その(京都外国語大学)
- 16:10～16:30 OD(組織開発)研修の実践と課題ー大学連携(Q-Links)における教職協働型研修事業の展開ー  
久保山 宏(九州大学)
- 16:30～16:40 休憩
- 16:40～17:00 学生情報の一元化による初年次修学支援システムの構築ー学部別低単位基準を指した教職協働  
児玉 英明(京都産業大学)
- 17:00～17:20 桜美林大学大学教育開発センター創設の取り組みと今後の課題  
橋爪 孝夫(桜美林大学)
- 17:20～17:40 総合討論

#### 部会7 高大連携・キャリア教育

会場：E207

司会：鈴木 誠(北海道大学)、夏目 達也(名古屋大学)

- 15:30～15:50 高等学校の進路指導担当者から見た大学の情報公開ー高大連携校を対象とした意識調査からー  
山崎 慎一(桜美林大学)
- 15:50～16:10 A0・指定校推薦合格者に対する入学前教育としてのセンター試験受験の試み  
出光 直樹(横浜市立大学)
- 16:10～16:30 自律的學生プロジェクトによる地域の理科教育支援活動を通じた学生教育効果  
長谷川 誠(千歳科学技術大学)
- 16:30～16:40 休憩

- 16:40～17:00 ロールレタリングを用いたキャリア教育の試み  
佐瀬 竜一(大阪国際大学)
- 17:00～17:20 卒年次キャリア教育の実践とその課題  
古賀 暁彦(産業能率大学)
- 17:20～17:40 就職活動における公立Y大学の学生メンター制度 学生メンターと学生メンティが抱く意味世界  
星野 知子(法政大学)
- 17:40～18:00 総合討論

## 18:10～20:00 懇親会

会場：北海道大学生協北部食堂

開会の挨拶 北海道大学副学長 山口佳三

アトラクション 北海道大学寮歌(百周年)「都ぞ弥生」弦楽四重奏

## 第2日 5月27日(日)

8:30～ 受付

## 9:00～12:00 自由研究発表Ⅱ

### 部会8 教育方法・授業改善(4)

会場：N1(階段大教室)

司会：橋本勝(富山大学)、松下 佳代(京都大学)

9:00～ 9:20 経済学教育としての経済実験の導入ー比較優位の実験経済学ー

藤澤 宜広(沖縄大学)

9:20～ 9:40 自問自答的修練ー考えることの苦手意識克服の試み

飯野 幹夫(国立音楽大学)

9:40～10:00 専門教育としての学部ゼミナールの授業構成に関する実証的検討

伏木田 稚子(東京大学大学院)、北村 智(東京経済大学)、山内 祐平(東京大学大学院)

10:00～10:20 シンポジウム形態による大学教育の一実践ー「共感」を題材にしてー

田島 裕之(尚絅学院大学)、目黒 恒夫(尚絅学院大学)、  
箭内 任(尚絅学院大学)、安井 猛(尚絅学院大学)

10:20～10:30 休憩

10:30～10:50 ラーニングアウトカムズと教育の質保証を目指す授業改善

清水 亮(三重中京大学)

10:50～11:10 授業におけるポートフォリオの活用ー学生と教員の振り返りに着目してー

久保 研二(広島大学)

11:10～11:30 ラーニング・ポートフォリオを活用した授業改善

田中 正弘(弘前大学)

11:30～11:50 総合討論

### 部会9 教育方法・授業改善(5)

会場：N2(階段大教室)

司会：長谷川 誠(千歳科学技術大学)、安岡 高志(立命館大学)

- 9:00～ 9:20 私立大学における「正課外教育プログラム」の現状と可能性 — 日本私立大学連盟加盟校へのアンケート調査からの考察  
大竹 秀和(立教大学)、諏佐 賢司(東京大学)、菊地 勇次(文部科学省)、武井 大貴(明治大学)
- 9:20～ 9:40 教育プロジェクトの評価方法開発に関する基礎的研究(1) — 山梨大学工学部「学大将プロジェクト」の事例から  
伊藤 亜希子(山梨大学)、日永 龍彦(山梨大学)、豊木 博泰(山梨大学)
- 9:40～10:00 教育プロジェクトの評価方法開発に関する基礎的研究(2) — 山梨大学工学部「学大将プロジェクト」の成果を探る  
日永 龍彦(山梨大学)、伊藤 亜希子(山梨大学)、豊木 博泰(山梨大学)
- 10:00～10:20 教員の省察を促すための学生の学習情報取得によるコースデザインの改善  
大山 牧子(京都大学大学院)
- 10:20～10:30 休憩
- 10:30～10:50 組織的な教学改善のために一知の共創サイクル構築への取組—  
井上 史子(帝京大学)、土持 法一(帝京大学)
- 10:50～11:10 立命館大学における学部・研究科へのPDCAサイクル浸透支援について  
安岡 高志(立命館大学)、山本 美奈(立命館大学)、宮浦 崇(立命館大学)、沖 裕貴(立命館大学)
- 11:10～11:30 擬似的なアンチ・ユビキタス・ラーニングの実験と考察  
天野 憲樹(岡山大学)
- 11:30～11:50 総合討論

## 部会10 学士課程教育

会場：E214 (大教室)

司会：濱名 篤(関西国際大学)、前田 早苗(千葉大学)

- 9:00～ 9:20 発展的なFDの指標としてのカリキュラム・マップとGPA  
浜崎 央(松本大学)、柴田 幸一(松本大学)、片庭 美咲(松本大学)、住吉 廣行(松本大学)
- 9:20～ 9:40 ディプロマ・ポリシーの実質化のためのシラバス及びFDとの統合的枠組み  
大森 不二雄(首都大学東京)、渡辺 雄貴(首都大学東京)、永井 正洋(首都大学東京)
- 9:40～10:00 学士課程教育の教育課程の概念拡大に伴う枠組みの検討 — 米国スタンフォード大学の改革を事例として  
中島 夏子(東北工業大学)
- 10:00～10:20 米国大学におけるルーブリック活用事例から見る学士課程教育の質保証  
堀井 祐介(金沢大学)
- 10:20～10:30 休憩
- 10:30～10:50 クラウドの電子ポートフォリオを活用した学士課程教育強化  
絹川 直良(文京学院大学)
- 10:50～11:10 米国大学の学士課程教育における教養教育の最近の動向について — カリフォルニア州立大学(CSU)の事例から  
前田 早苗(千葉大学)、工藤 潤(大学基準協会)
- 11:10～11:30 島根大学教養教育改革の過程と全学共通教育の構築  
鹿住 大助(島根大学)、森 朋子(島根大学)、松田 岳士(島根大学)、雨森 聡(島根大学)
- 11:30～11:50 大学一般教養科目としての「宇宙科学」の意義  
岩田 陽子(独立行政法人宇宙航空研究開発機構)

11:50～12:10 総合討論

### 部会 1 1 初年次教育・教養教育

会場：E205

司会：西村 秀雄(金沢工業大学)、杉谷祐美子(青山学院大学)

9:00～9:20 東北大学における全学教育学習支援プロジェクト実践報告 — SLA システム開発による学生相互の学び合い促進に向けた取り組み

足立 佳菜(東北大学)、鈴木 学(東北大学大学院)

9:20～ 9:40 現代的課題に対応した初年次教育の実践と展望

山邊 昭則(東京大学)

9:40～10:00 初年次教育における継続的リフレクション環境の実態調査と改善

土屋 衛治郎(島根大学)、森 朋子(島根大学)、鹿住 大助(島根大学)

10:00～10:20 初年次導入教育としての教育ディベート

倉茂 好匡(滋賀県立大学)、丸尾 雅啓(滋賀県立大学)

10:20～10:30 休憩

10:30～10:50 福祉系学生の傾向と変化に対する初年次教育の展開 — 5年間の初年次学生の比較から

黒山 竜太(長崎国際大学)、高島 恭子(長崎国際大学)、原田 奈津子(長崎国際大学)、  
益田 仁(長崎国際大学)、石倉 健二(兵庫教育大学大学院)、  
熊谷 賢哉(長崎国際大学)、山岸 利次(宮城大学)

10:50～11:10 カリキュラムマップを用いた初年次キャリア教育の実質化

西村 秀雄(金沢工業大学)

11:10～11:30 オピニオン・リーダーとしての上級生によるピア・サポート

中村 博幸(京都文教大学)

11:30～11:50 チュートリアル教育における学生間の評価コメントに関する指導と分析Ⅱ

仙石 昌也(愛知医科大学)、山森 孝彦(愛知医科大学)、  
久留 友紀子(愛知医科大学)、宮本 淳(愛知医科大学)

11:50～12:10 総合討論

### 部会 1 2 ライティング・大学院

会場：E208 (大教室)

司会：井下 千以子(桜美林大学)、森元 拓(北海道医療大学)

9:00～ 9:20 高大接続を見通したアカデミック・ライティングの授業構想

田中 均(島根大学)

9:20～ 9:40 アカデミックライティングをどう組織化するか—「名古屋大学学生論文コンテスト」の事例を中心に

近田 政博(名古屋大学)

9:40～10:00 レトリカル・コミュニケーション教育の勧め

橋本 満弘(西南女学院大学)

10:00～10:10 休憩

10:10～10:30 大学院教養教育としてのリーダーシップ授業

石村 学志(北海道大学)、田中 晋吾(北海道大学)、田中 教幸(北海道大学)

10:30～10:50 修士論文作成過程での学びに関する大学院生の自己評価

城間 祥子(上越教育大学)、大竹 奈津子(愛媛大学)、山内 一祥(佐賀大学)

10:50～11:10 大学院生が学習支援を通して得られる教育的効果

大竹 奈津子(愛媛大学)、山内 一祥(佐賀大学)、城間 祥子(上越教育大学大学院)

11:10～11:30 大学院教養教育としてのグローバル教室を用いたサステナビリティ学の可能性  
田中 晋吾(北海道大学)、石村 学志(北海道大学)、チッテンデントニー(北海道大学)、  
モクタール グイザニ(北海道大学)、辻 宣行(北海道大学)、  
深水 護(北海道大学)、田中 教幸(北海道大学)

11:30～11:50 総合討論

### 部会 1 3 教職協働・教職員能力開発 (2)

会 場 : E206

司 会 : 栗田 佳代子(大学評価・学位授与機構)、羽田 貴史 (東北大学)

9:00～ 9:20 学生 FD 活動の現状と課題

木野 茂(立命館大学)

9:20～ 9:40 中堅大学における大学教員のアイデンティティとリアリティ

宇田川 拓雄(北海道教育大学)

9:40～10:00 大学教員対象のメンタリングプログラムの効果と課題

中井 俊樹(名古屋大学)

10:00～10:20 アカデミック・ポートフォリオの導入方法について - リフレクション重視のティーチ  
ング・ポートフォリオとの連携

栗田 佳代子(大学評価・学位授与機構)

10:20～10:30 休憩

10:30～10:50 アニュアル・レポート作成と地域連携教育の新展開

住吉 広行(松本大学)

10:50～11:10 補助金事業による管理運営支援チームの取り組みから

池田 一郎(筑波大学)

11:10～11:30 PFF (Preparing Future Faculty) プログラム開発への取組み—実践的 FD プログラムを応  
用した PFF の構築

林 泰子(立命館大学)、沖 裕貴(立命館大学)

11:30～11:50 総合討論

### 部会 1 4 学生・学習支援

会 場 : E207

司 会 : 佐藤 浩章 (愛媛大学)、吉永 契一郎 (東京農工大学)

9:00～ 9:20 低意欲・中間意欲層の学生に対する組織的支援を加速するファシリテータ・マインド

中沢 正江(京都産業大学)、鬼塚 哲郎(京都産業大学)、森 洋(京都産業大学)、  
山内 尚子(京都産業大学)、児玉 英明(京都産業大学)

9:20～ 9:40 休退学予防を見据えた教職協働の進展 - 情報公開と IR の視点から

片庭 美咲(松本大学)、住吉 広行(松本大学)、  
山本 由紀(松本大学)、柴田 幸一(松本大学)

9:40～10:00 図書館ラーニングアドバイザーを活用した学部学生レポート作成能力の向上支援

郷原 正好(信州大学)、小島 浩子(信州大学)

10:00～10:20 大学図書館での SA による学習相談の試行的実践 - 千葉大学アカデミック・リンクの事  
例報告

竹内 比呂也(千葉大学)、姉川 雄大(千葉大学)、白川 優治(千葉大学)、  
國本 千裕(千葉大学)、川本 一彦(千葉大学)、岡本 一志(千葉大学)、  
米田 奈穂(千葉大学)、庄司 三千子(千葉大学)、谷 奈穂(千葉大学)

10:20～10:30 休憩

10:30～10:50 学生による学生支援の現代的意義 - 学生に対するインタビュー調査より

- 10:50～11:10 佐賀大学におけるラーニング・ポートフォリオとチューター制度を活用した学生支援の実態  
小貫 有紀子(九州大学)、橋場 論(立教大学)  
山内 一祥(佐賀大学)、藤井 俊子(佐賀大学)、皆本 晃弥(佐賀大学)、  
日永田 泰啓(佐賀大学)、滝澤 登(佐賀大学)
- 11:10～11:30 明治時代における学生支援 — 舎監の活動を中心として  
前田 剛(国士舘大学)
- 11:30～11:50 中国の大学における学生の自己管理能力形成と学生支援  
呉 嬌(名古屋大学)
- 11:50～12:10 総合討論

12:10～13:10 **昼食** 学生食堂は休みです。近くの食堂またはお弁当屋さんをご利用願います。

13:10～15:10 (シンポジウム I・II 並行開催)

## シンポジウム I : 学士課程教育の質の改善と教育情報

会 場 : 大講義室

司 会 : 佐藤 浩章 (愛媛大学)、安藤 厚 (北海道大学名誉教授)

- ・ 学士課程教育のプロセス評価から学生の学びをみる 山田 礼子 (同志社大学)
- ・ 学士課程教育の質改善に寄与する高機能 GPA のエビデンス 半田 智久 (お茶の水女子大学)
- ・ 学士課程教育における数学力育成の取組について 高橋 哲也 (大阪府立大学)
- ・ 学士課程教育と学士力の実質化 — 認証評価からみた現状と課題 工藤 潤 (大学基準協会)

## シンポジウム II : 転換期における科学リテラシー教育の課題

会 場 : N2 (階段大教室)

司 会 : 鈴木 久男 (北海道大学)

- ・ 市民教育の実践 木村 真三 (獨協医科大学)
- ・ 科学技術コミュニケーターの養成 石村 源生 (北海道大学)
- ・ 科学技術教育の課題と展望 塚原 修一 (国立教育政策研究所高等教育研究所)

15:10～15:20 次期開催校挨拶

15:30～16:50 **緊急シンポジウム : 大学への秋期入学をめぐる**

会 場 : 大講義室

話題提供 : 鈴木 敏之 (東京大学 副理事)

コメント : 山口 佳三 (北海道大学 副学長)

司 会 : 小笠原 正明 (大学教育学会会長・北海道大学名誉教授)

16:50～17:00 閉会

## <大会参加要領>

### 1. 大会参加申込みについて

#### ウェブでのお申し込み

本学会ウェブサイトにて第34回大会関連ページが開設されました。

<http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/society/page-1>

大会に参加される方は、このページの左メニューの「第34回大会参加申込」からリンクされている参加申込みフォームにて申込み下さい。非会員の方も申込み可能です。参加事前申し込み締め切りは、4月30日（月）となります。ただし要旨集の名簿掲載につきましては、4月22日（日）までの申し込み分となります。

締め切り以降の申し込みは、大会当日の会場受付にて当日参加申し込みでお願い致します。

参加費・懇親会費等の支払は5月18日（金）までに郵便局か銀行等からお振込み下さい。期限内に入金がないと参加申し込みが無効になる場合がありますのでご注意ください。

#### FAX. 郵便でのお申し込み

ウェブをご利用出来ない方からは、直接FAX、郵送でのお申し込みをお受けします。以下の13項目を下記の連絡先までお知らせ下さい。①氏名 ②フリガナ ③性別 ④会員区分（個人会員・学生会員・団体会員・一般・学生） ⑤所属機関 ⑥連絡先種別（自宅or所属機関をご明記下さい） ⑦連絡先郵便番号 ⑧連絡先住所 ⑨連絡先電話番号 ⑩参加 or 『要旨集』のみ希望（部数） ⑪懇親会の参加・不参加 ⑫参加費の振込み人名義と金額、郵送の場合の参加申込は4月30日（月）（必着）となります。

#### 【参加費用一覧】

\*大会参加費（発表要旨集録を含む）

会員・一般 4月30日（月）まで 4,500円、5月1日（火）以降・当日受付 5,000円

学生 1,000円（当日受付 1,000円）

\*懇親会費

会員・一般 4月30日（月）まで 4,500円、5月1日（火）以降・当日受付 5,000円

学生 事前受付 2,000円、当日受付 2,000円

\*要旨集録のみ（送料込） 1,000円

#### 【郵送先】

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

北海道大学高等教育推進機構 高等教育開発研究部門気付

大学教育学会第34回大会企画実行委員会

庶務担当 山田 邦雅

電話：011-706-7520（秘書室） FAX: 011-706-7521

e-mail: [gakkai@high.hokudai.ac.jp](mailto:gakkai@high.hokudai.ac.jp)



## 【振込先】

### ●郵便局から

ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATMにより以下へお振込下さい。

口座記号番号： 02710-8-98516

加入者名： 大学教育学会2012年度大会企画実行委員会

### ●銀行等から

窓口、ATMから以下へお振込下さい。

銀行名(金融機関コード)： ゆうちょ銀行 (9900)

店名(店番)： 二七九(ニナナキユウ)店(279)

預金種目： 当座

口座番号： 0098516

口座名称： 大学教育学会2012年度大会企画実行委員会 (ダイガクキョウイクガツカイ  
ニセンジュウニネンドタイカイキカクジッコウイインカイ)

## 2. 宿泊について

名鉄観光サービスの情報によると、参加者 5000 名以上の大会が、24～26 日に札幌で 2 つ同時に開催されます。これにともない、市内のホテルの予約が取りにくい状況になりつつあります。北大生協旅行部の情報でも、すでに新しいホテルは予約しにくくなっているとのことです。参加予定者、とくに発表予定者は早めにホテル、航空券等の予約を確保することをお奨めします。旅行業者の情報については、以下のホームページの案内もご参照下さい。

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/hotel.pdf>

## 3. アクセス

(1)JR 新千歳空港 → (JR 快速エアポート 約 36 分) → JR 札幌駅

(2)札幌駅 → 会場 (北海道大学高等教育推進機構)

・地下鉄さっぽろ駅 → (地下鉄南北線麻布行き 約 4 分) → 地下鉄 北 18 条駅 下車徒歩 10 分

・JR 札幌駅より徒歩 35 分



第34回大会に関するお問い合わせ  
 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
 北海道大学高等教育推進機構 高等教育開発研究部門気付  
 大学教育学会第34回大会企画実行委員会  
 庶務担当 山田 邦雅  
 電話：011-706-7520（秘書室）  
 e-mail: gakkai@high.hokudai.ac.jp

## ＝事務局から＝

### ● 役員選挙について

この度、選挙権を有する方には役員選挙のための、投票要領、被選挙人名簿、投票用紙等を同封させていただきます。

投票要領をご参照の上、お早めにご投票くださいますようお願いいたします。

なお、投票の締切りは、**2012年4月23日(月)(消印有効)**となっております。

### ● 次期事務局について

2012年5月28日(月)からも、引き続き、現在の桜美林大学淵野辺キャンパス内に設置されることとなりました。

### ● 事務局業務一部外部委託について

2012年4月1日より「**入退会・会員登録情報変更・会費納入状況**」についての事務局業務が外部委託され、下記のように、お問い合わせ先が変更となります。その他のお問い合わせにつきましては、これまでどおり**学会事務局**にて承ります。

#### <「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ内

TEL:03-5907-3750 FAX:03-5907-6364

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

なお**会費請求書**は、例年4月上旬発行のニューズレターに同封しておりますが、2012年度は、業務の一部委託等に伴い、**5月に発行予定の学会誌第34巻第1号に同封**させていただきます。

### ● 団体会員、会誌配布団体の会員番号(ID)の変更について

個人会員数の急増に伴い、団体会員、会誌配布団体の会員番号を変更せざるを得なくなりました。これらの会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### <会員番号の変更方法>

従来の**会員番号の千の位の数字と百の位の数字の間に「0(ゼロ)」を入れ、5ケタの番号**になります。

例：団体会員：(現)3111→(新)30111

会誌配布団体：(現)5011→(新)50011

なお、**個人会員については、会員番号(0001～2999)に変更はありません。**

### ● 2012年度課題研究集会について

2012年度課題研究集会(開催校:島根大学)は、**11月23日(金)～24日(土)**くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)にて開催予定です。

例年と異なり、土・日の開催ではありませんのでご注意ください。

### ● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、主にヤマトメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。

このような事情をご理解の上、変更が生じた場合、迅速に会員登録情報の変更申請を学会ウェブサイト上の会員ページよりお願い申し上げます。



---

### 【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1  
桜美林大学 淵野辺キャンパス 3階  
Tel/Fax: 042-704-7014  
E-mail: [ungakkai@gmail.com](mailto:ungakkai@gmail.com)  
URL: <http://www.daigakukyoiu-gakkai.org/>

### 【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター  
〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリオ内  
TEL: 03-5907-3750 / FAX: 03-5907-6364  
E-mail: [g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp)